

雑誌「財界」（8月6日号）の〈ずいひつ〉コーナーに平野理事長の「災害から命を守るジュニア防災検定」が掲載されました

### 災害から命を守るジュニア防災検定

平野啓子（ひらの・けいこ）

一般財団法人防災検定協会理事長

私たちは一般財団法人防災検定協会を5月1日に防災界、教育界、マスコミの有志で設立しました。日本人は、平成23年3月11日の東日本大震災から多くのことを学びました。その最たるものが生命の大切さです。

日本は地震大国と言われますが、地震以外の火山の噴火、土砂災害など様々な災害があり、「災害大国日本」とも言われます。何百年も昔から、災害が起こるたびに、備えが大切だということを何らかの形で皆さんが伝えてきていますが、「災害は忘れた頃にやってくる」という形で大きな災害に見舞われるたび

に、大きな被害を出しています。

日頃から意識を持って、災害に対処するための備えをし、行動ができることが大事になります。災害時に、慌てながらも訓練に基づく行動ができるかが問われるのだと思います。

運を天に任せる一歩前に、自分たちの力で自らの命、大切な人の命を守ることができないものか、という意識は平成7年の阪神・淡路大震災、同19年の新潟県中越沖地震、そして同23年の東日本大震災によって、皆さんの心に刻み込まれたと思います。

子どもたちに対する日頃の防災教育の重要性は常に叫ばれてきましたが、実際には学校教育の現場では時間的に難しいこと、教えることができる先生が確保できないという事情があり、なかなか進んでいないのが現実です。そこで、民間サイドで少しでも防災教育を進めたいという願いから、防災検定協会は今年12月から「ジュニア防災検定」を開始することになりました。

検定の対象は初級が小学校5年生まで。中級が小学校6年生・中学校1年生。上級が中学校2年生・3年生の3段階となっています。

内容は、通常の検定とは少し違っていて、筆記試験「検定テスト」に加えて、親や兄弟と災害、防災について話し合ったことを作成し提出することで家族の絆を深める「事前課題」と、自分が住む地域に起こると予測される災害や、過去の災害の歴史などについて調べ、自由研究方式でまとめたり、地域の防災マップを作成するなどの「事後課題」で構成しています。

検定に合格することは、喜びにつながると思いますが、むしろ検定をきっかけに、防災の重要性を理解させ、意識を高めていくことを目的としています。

私自身、検定の問題作成にかかわる中で、身近な生活の中の安心・安全に気づかされたことが多くありました。ぜひ、検定をきっかけにして、ご家族で防災、安心・安全について話し合っていたいただきたいと思います。

東日本大震災以降、私は自主的な取材で被災地を訪問していますが、最近も岩手県陸前高田市に行ってきました。地元で伝わる「津波てんでんこ」の話は、大事な人を助けようと、もう一度海の方に向かうことはやめましょうという教えだということです。

昔は、当たり前のように普段の生活の中で、家族で食事をしながら、近所の方と外で立ち話をしながら伝えられましたが、今はそういう場が減っています。大人の方をお願いしたいのは、災害のつらい経験を思い返して、子どもに一生懸命伝えていただきたいのです。そうすれば、子どもはそれを重視して育つことにつながると思うのです。

語り生活 25 周年を迎えた今年、奇しくも防災検定協会の初代理事長に就任することになりました。これを機に、経済界の皆様のご支援を賜り、ジュニア防災検定を通じて、より一層、防災教育が普及・発展することを願う次第です。